



林業省  
森林バイオテクノロジー・  
樹木改良研究センター



## アジア・パルプ・アンド・ペーパー・グループが ラミン保護プログラムで林業省と協力

2012年10月29日 アジア・パルプ・アンド・ペーパー・グループ (APP) は、林業省 森林バイオテクノロジー・樹木改良研究センター (CFBITI) と協力し、ラミン (*Gonystylus Bancanus*) の遺伝資源の改良と保護プログラムに着手しました。このプロジェクトは過伐により絶滅の恐れがあるインドネシアのラミン種の保護取り組みを支援するものです。

10月1日にスマトラ島リアウ州で立ち上げられたこのラミン保護プログラムは、最初に APP の生産林内の保全地区 20ヘクタールで行われます。5年間にわたるこの協力関係は、インドネシア初の民間企業によるラミン保全取り組みです。

ラミンの伐採は違法ではありませんが、ラミンはワシントン条約付属書 (CITES Appendix II) で指定されている保護植物種であり、その使用や取引は厳格な規制と条項の対象となっています。ラミンはインドネシアやマレーシアの泥炭湿地や低地淡水湿林に自生しています。インドネシアにはラミン 10種が存在すると推定されていて、そのすべてがさらなる保全努力を必要とする樹種として区分されています。

ラミンは家具産業において国際的に人気の高い美しい木材とみなされており、市場価値の高い淡色広葉樹です。その生物学的特徴により、ラミンの年間受粉サイクルは不規則です。開花時期は土地により異なり、同じ生息域の他の樹種と比較するとその再生過程はゆっくりとしています。

林業省の林業研究開発庁長官イマン・サントソ工学博士はこの取り組みを歓迎しています。「APPのような民間企業による、インドネシアでのラミン種の保護に向けた取り組みを評価します。この絶滅危惧種の保全プログラムを実施するコミットメントは、他の企業も追随していくべきものです。さらにこの計画は、林業省の林業研究開発庁が実施してきたラミンの研究開発と連携するものでもあります」

APPとCFBITIとの協力を言及し、CFBITI所長のアミル・ワルダナ工学博士は次のように述べました。「CFBITIとAPPとの協力により、ラミンの遺伝資源の再生・保護に向け、我々はさらに前進することができます。こうした協力関係が始まる前は、ラミンの保全・再生取り組みは小規模な研究でしかありませんでした。しかしこの計画のおかげで、研究によって得た知識を自然林の生息域 20ヘクタールという、より広範囲におよぶ土地で実践することができるようになります。また、この研究によってもたらされる栽培技術は、ラミンの植林地開発のために地域社会によって利用され得るものでもあります」

APPは、指定された保護および保全地域を維持し、絶滅危惧種として分類されている動植物種を増加させるという国家目標の支援を誓約の一つとして掲げた、持続可能性ロードマップ ビジョン 2020 をつい先日発表しました。

APPの持続可能性およびステークホルダー担当役員のアイダ・グリーンベリーは、「保全取り組みには、政府、民間企業、地域社会、NGOなど、さまざまなステークホルダーの皆様による支援と協力が必要です。APPは生物多様性を保全することを誓約しており、インドネシアの絶滅危惧種の生存数を増加させる共同取り組みに積極的に貢献できることを喜んでおります」と述べました。

+ +

**本件に関するお問い合わせ先：**

エイピーピー・ジャパン株式会社  
環境・PL 対策ユニット  
寺崎 孝穂  
Tel: 03-5217-1256  
Email: t-terasaki@appj.co.jp

**APP 広報代理店**

パーソン・マーステラ  
田中 彩  
Tel: 03-3264-6701  
Email: aya.tanaka@bm.com

**APPインドネシアについて：**

アジア・パルプ・アンド・ペーパー・グループ（APP）は、インダ・キアット紙パルプ会社、ピンド・デリ紙パルプ会社、チウィ・キミア製紙会社、ロンター・パピルス紙パルプ会社、エカマス・フォルトウナなど、インドネシアにある複数の工場生産されている紙製品の総合ブランドです。APPはインドネシアに本社を置き、世界120ヶ国を超える国々で製品を販売しています。APPの生産設備の大部分はLEIとPEFCによる加工・流通過程認証を取得しています。

APPは、ギアム・シアク・ケチル-ブキット・バツにある178,000ヘクタールの生物圏保護区、106,000ヘクタールのセネピストラ保護区など、多くの大規模な環境保全取り組みを支援しています。両保護区はスマトラ島リアウ州に位置しています。APPによる野生生物保全取り組みには、他にもカリマンタンでのクタイ・オランウータン・プログラムや、ウジュン・クロン国立公園でのジャワサイの保護への支援などがあります。

**APPの持続可能性ロードマップ ビジョン2020：**

2012年6月5日、アジア・パルプ・アンド・ペーパー・グループは、今後10年間、さらにその先を見据えた持続可能性ロードマップ ビジョン2020を発表しました。ここには、環境パフォーマンスのさらなる改善や、生物多様性の保護、地域社会の権利の保護などが盛り込まれています。APPはこの過程で、持続可能性ロードマップに記載された目標に沿って、その進捗状況を透明性を持って報告して行くことを誓約しました。主要目標の中には、2015年までに植林木への依存度を100%とすることや、2020年までにパルプ材供給会社の100%が持続可能な森林管理（SFM）認証を取得することなどがあります。

**林業省：**

ロードマップの要は責任ある原料調達と加工方針（RFPPP）であり、事業全体に及ぶ高い保護価値と伝統的な市民権の保護はその重大な要素です。APPが乗り出したこの旅路は、NGOや政府、お客様など複数のステークホルダーの参加を含む、当社の持続可能性目標を達成するというゴールに向かう現在進行中の取り組みを反映したものです。詳細については下記URLをご覧ください：

[www.rainforestrealities.com](http://www.rainforestrealities.com)または [www.asiapulppaper.com](http://www.asiapulppaper.com)